審判用紙の記入の仕方

（1）記号の意味

（　　）… ポイント

（　　）… 第１サービスのフォールト

（　　）… 相手のダブルフォールトによるポイント

（　　）… 自分のサービスエース（ノータッチ）によるポイント

（2）審判用紙記入練習

Ａ・Ｂ組対Ｃ・Ｄ組のダブルスの試合。

最初のエンドはＡ・Ｂ組が主審から見て左側で、レシーブサイドはＡとＣが右側。

第１ゲームはＣが、第２ゲームはＢがサービスを行った。

① ゲームカウント４－４で、第９ゲームが始まる。

第１ポイント：セカンドサービスで始まったポイントを、Ａがリターンエースでとる。

第２ポイント：Ｃがファーストサービスのサービスエース（ノータッチ）でとる。

第３ポイント：ファーストサービスはフォルトだったが、ラリー中、隣のコートからボールが入ってきたので、ポイントのレットとなり、次に打ったサービスでポイントが決まり、ＡＢ組がとる。

第４ポイント：ダブルフォールト。

第５ポイント：ファーストサービスで始まり、長いラリーの末ＣＤ組がとる。

第６ポイント：セカンドサービスで始まったポイントをＣＤ組がスマッシュで決めた。

第７ポイント：Ｃのセカンドサービスが、ノータッチエースとなって決まった。

第８ポイント：ファーストサービスで始まったポイントで、Ｄが打ったボレーが直接Ｂの体にぶつかった。

② 試合はその後、６－６になり、タイブレイクに入る。

第１ポイント：Ｃのファーストサービスがノータッチエースとなって決まる。

第２ポイント：Ｂがダブルフォールト。

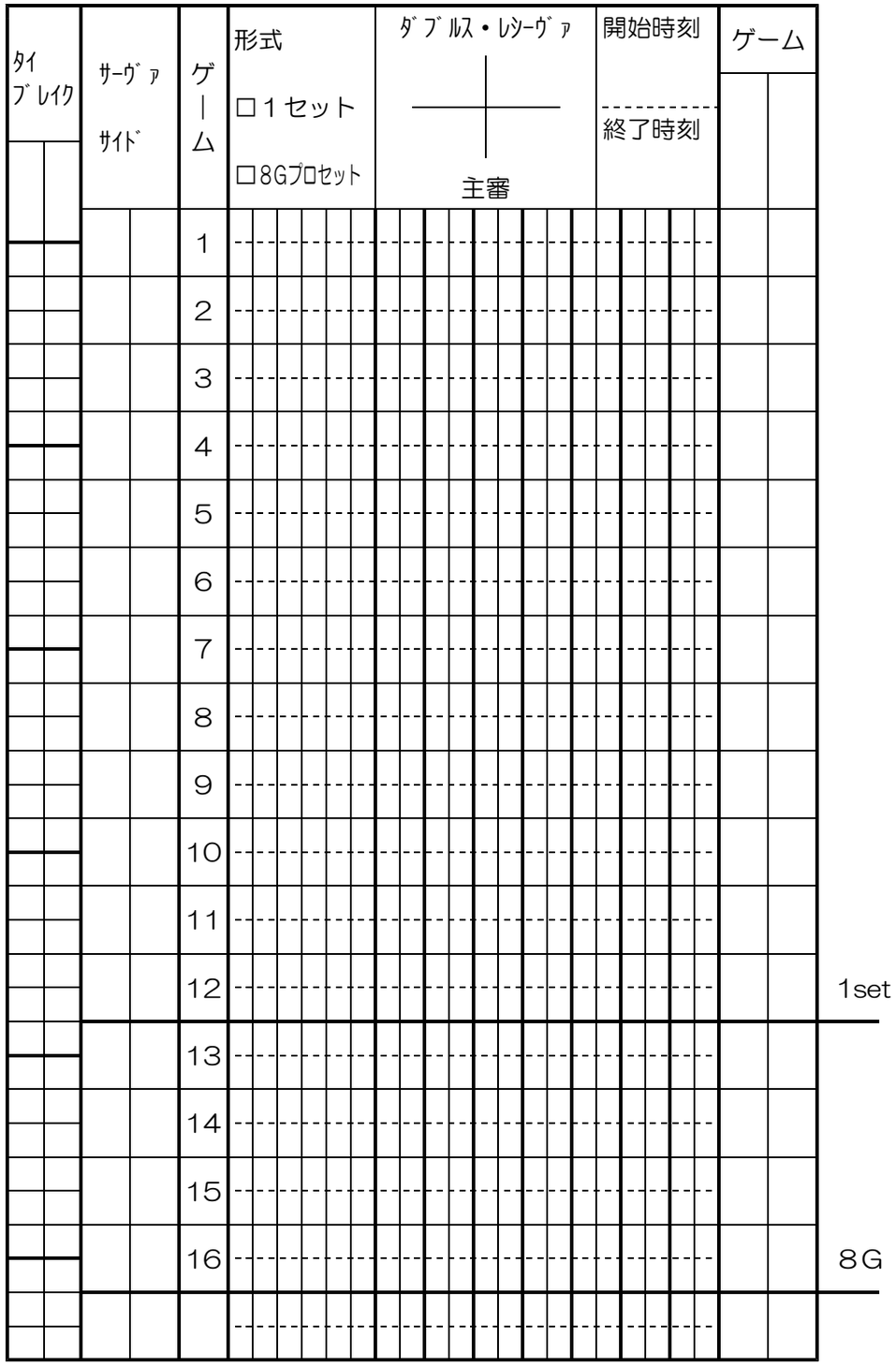
第３ポイント：ファーストサービスで始まったポイントで、Ａのボレーがアウト。

第４ポイント：Ｄがダブルフォールト。

第５ポイント：セカンドサービスで始まったポイントを、ＣＤ組がとる。

第６ポイント：ファーストサービスのＤのリターンを、Ｂがポーチで決める。

第７ポイント：ファーストサービスで始まったポイントをＤがスマッシュで決める。

第８ポイント：Ｃのセカンドサービスがノータッチエースとなる。

第９ポイント：ファーストサービスのレシーブがネットにかかり、ＣＤ組が勝利。